

1 単元 室積一番プロジェクト

～人と人がつながる町づくりのために取り組んでいる人々や組織～

2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは、「地域の魅力を伝え隊」において、山車保存会の方々の話を聞き、早長八幡宮秋祭りを盛り上げるためにできることを探る経験をしている。そこでは、山車保存会の方々の思いから自分たちも何かしたいという思いをもち、自分たちにできることを見いだしてきた。しかし、山車保存会の方々の思いを捉え、自分たちにできることを見いだしていく際には、自らが見通しや責任をもち、計画を立てながら山車保存会の方々の思いを捉えていったり、できることを見いだしていったりするまでには至っていないように思える。そこで、単元を構想するにあたっては、次のような題材を設定する。

<題材について>

本題材は、人と人がつながることや室積を盛り上げることを目的として室積市場ん火曜マルシェを運営する人々や、そこに訪れる人々など、多様な人々と関わり合い、思いに触れることのできる題材といえる。子どもは、運営する人々がどんな思いで運営しているのかや、訪れる人々が何を楽しみとしているのかなどを、実際に参加し、関わって知ることを通して、室積市場ん火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむために自分たちにできることを探究し、今後身近な人や社会との関わりの中で自分たちにできることを問い続けていくであろう。ここでは、自らが見通しをもって、計画を立てたり、振り返ったりしながら、自分たちにできることを探究していこうとする子どもの姿を大切にしたい。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- 第一次では、室積市場ん火曜マルシェに参加したり、運営する人々と関わり、どんな思いで運営しているのかを聞いたりする活動を設定する。そうすることで、室積市場ん火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむために自分たちにできることを探究しようとする思いをもつことができるようにする。
- 第二次では、実際に見たり聞いたりした情報を基に、自分たちにできることの計画を立てたり、振り返ったりする活動を設定する。そうすることで、実際に関わることによって得た情報を基に、自分たちにできることを探究することができるようにする。
- 第三次では、室積市場ん火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむために探求してきたことを振り返り、地域や人と関わる際に、今後自分にできることやしたいことを考える場を設定する。そうすることで、身近な人や社会との関わりの中で、自分たちにできることやしたいことを考えていくことができるようにする。

3 目標

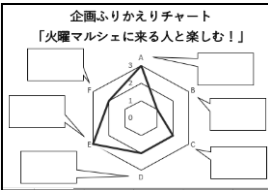
室積市場ん火曜マルシェを運営する人々や、訪れる人々などに関わり、訪れる人々と共に楽しむためにできることを探究していく活動を通して、室積のために取り組んでいる人々や組織が存在していることや、人々が互いに関わり合いながら生活していることに気づき、訪れる人々と共に楽しむための企画を考え、今後身近な人や社会との関わりの中で、自分たちにできることを考えることができるようにする。

4 well-beingにつながる学びについて

本学園では、well-beingを「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-beingの実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えます。

本学園の総合部では、課題の探究を通して、自己の生き方を問い続ける子どもを育成する授業が、教科等の本質に迫る授業だと捉えている。また、エージェンシーを発揮している姿を、対象への思いをもち、思いの実現に向けて必要な行動を自分たちで繰り返し計画、実行、振り返りながら、責任をもって自分たちにできることを探究していく姿だと捉えている。本単元においては、室積市場ん火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむために考えた企画を振り返る際、企画振り返りチャートを用いて、チャートに入れる項目を子どもと共に作成する活動を設定する。思いや実際の情報を基に振り返る項目を自分たちで設定し、責任をもって振り返り、自分たちに足りないことや関わりに気づき、次の行動につなげていく様相がエージェンシーを発揮した姿だと考えている。このような学習を経験した子どもは、いかなる人・社会・自然との関わりの中でも必要な行動を繰り返し計画、実行、振り返りながら、自分たちにできることを探究することができるようになり、well-beingの実現につながるだろう。

5 指導と評価の計画（総時数 32時間）

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	評価規準・評価方法等				
			知	思	態	評価方法	
一 ⑩	<ul style="list-style-type: none"> ○ 火曜マルシェの内容や目的についてインタビューや実体験を通して情報を収集する ・火曜マルシェの内容や目的 ・火曜マルシェを運営する人々の思い ・情報収集の仕方 ○ 火曜マルシェに訪れる人々に、どのような思いになってほしいかについて交流する ・火曜マルシェに訪れる人々に対する思い 	<ul style="list-style-type: none"> ・火曜マルシェに参加したり、運営する人々と関わったりする場を設定することで、火曜マルシェに訪れる人々にどのような思いになってほしいかを明確にできるようにする 	① ②	②	①	<ul style="list-style-type: none"> ・発言内容 ・ノート ・行動観察 	
二 ⑳ 本時 12 ／ 20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむためにできることについて計画を立て、振り返りの視点を決め、振り返る ・火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむためにできること ・振り返りや新たな課題設定の仕方 ○ 火曜マルシェに訪れる人々にはどんな人が多いか、また、何を楽しいと感じているかについて情報を収集する ・火曜マルシェに訪れる人々の思い ・情報収集の仕方 ● 振り返りの項目を改めて決め、企画について振り返る ・火曜マルシェに訪れる人々に対する思い ・振り返りや新たな課題設定の仕方 ○ 再度火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむためにできることについて計画を立て、実行し、振り返る ・火曜マルシェに訪れる人々に対する思い ・振り返りや新たな課題設定の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画振り返りチャートの項目を子どもと共に作成していくことで、企画を自らが責任をもって振り返り、次の行動につなげていくことができるようにする 		① ②	① ③ ②	① ②	<ul style="list-style-type: none"> ・発言内容 ・ノート ・行動観察
三 ②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究を振り返り、地域や、人と関わる際に、今後自分にできることやしたいことを考える ・自己の生き方 		① ③		③	<ul style="list-style-type: none"> ・発言内容 ・ノート 	

6 本時案 ー第2次・12時分ー

- (1) 主眼 自分たちが考えた企画について、振り返りの視点を自分たちで決めて企画振り返りチャートを用いて振り返る活動を通して、今後の企画の方向性や企画を進める上で必要な行動について見いだすことができる。
- (2) 準備 ワークシート、企画振り返りチャート
- (3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
<p>1 企画振り返りチャートに必要な項目について交流する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 企画振り返りチャートにどのような項目があったらよいか </div> <ul style="list-style-type: none"> ・企画を振り返る視点 	<p>ア マルシェに来ていた人は人と話すのが楽しいと言っていたから、「話す時間」という項目を入れよう</p> <p>イ 高齢者の方が多かったから、「見やすい」という項目も必要だと思うな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に調べた火曜マルシェに訪れる人々の情報について共有をすることで、新たな視点に目を向けることができるようにする 	10
<p>2 グループごとに企画の振り返りの項目の発表と企画内容の実演やプレゼンを行い、全体で企画振り返りチャートを活用して、企画内容を振り返る</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 企画の内容は、思いにつながりそうか </div> <ul style="list-style-type: none"> ・企画の振り返り ・企画を振り返るために必要な視点 ・火曜マルシェに訪れる人々の思い 	<p>ア 折り紙プレゼントグループは、とてもきれいに作っていたから、もらった人は喜ぶと思うな</p> <p>イ でも来ていた人には、話すことが楽しいと言っている人が多かったから、折り紙でつくったものは何かを当てるクイズを入れたらいいと思うな</p> <p>ウ クイズグループは、来た人と一緒に話して楽しめる企画だからいいと思うよ</p> <p>エ でも高齢者の方が多かったから、聞こえにくいかもしれないよ。文字を書いて見せた方がより、楽しめることにつながるのではないかな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに企画振り返りチャートに入れる項目を選択させて振り返りを行わせることで、各グループで自分たちの企画を責任をもって振り返ることができるようにする ・ 火曜マルシェに訪れる人々になってほしい思いをキーワード化したものを提示し、企画内容の振り返りと関連付けながら板書にまとめることで、一次でつかんだ思いへの意識を継続できるようにする 	35
<p>3 企画の振り返りを基に、今後の学習の方向性を計画する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 今後企画を進める上で、何をしていくことが必要か </div> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな課題設定 	<p>ア 火曜マルシェのお店の人は、お客さんのために、どのようなことを意識しているのか、聞いてみたいな</p> <p>イ 火曜マルシェには、どんな人が来ていて、どんな人が多いのかももう一回見てみたいな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の書いた企画振り返りチャートを基に自分たちに必要な行動を計画させ、全体で共有することで、今後必要な行動の方向性を見いだすことができるようにする 	45

(4) 評価規準と方法

自分たちが考えた企画について、振り返りの視点を自分たちで決めて企画振り返りチャートを用いて振り返る活動を通して、今後の企画の方向性や企画を進める上で必要な行動について見いだすことができたか、発言やワークシートの記述からみとる。

<メモ>

評価基準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<p>① 室積のために取り組んでいる人々や組織が存在していることや、人々が互いに関わり合いながら生活していることに気付いている。</p> <p>② インタビューによる調査を、相手や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>③ 室積のために取り組むよさや、人々が互いに関わり合いながら生活していることへの気付きは、火曜マルシェを運営する人々や訪れる人々と関わりながら探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>① 火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむためにできることを探究するために、必要な行動が何かを見通しをもって計画を立てている。</p> <p>② 火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむためにできることを探究するために、必要な情報を見通しながら収集し、種類に合わせて蓄積している。</p> <p>③ 収集した情報を取捨選択したり、異なる情報の共通点や相違点を明らかにしたりしながら、確かな根拠をもって、火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむためにできることを探究している。</p> <p>④ 伝える相手や目的に応じて分かりやすく伝わるように表現している。</p>	<p>① 火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむためにできることを探究する際に、異なる考えを尊重しようとしている。</p> <p>② 火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむためにできることを探究する際に、見通しをもって意欲的に取り組んでいる。</p> <p>③ 火曜マルシェに訪れる人々と共に楽しむためにできることを探究し、今後身近な人や社会との関わりの中で、自分たちにできることを考え、行動しようとする。</p>